

ここから 人の一生を支える 歯科医師として生きていく。

歯科医師になる。
これはゴールではありません。

「口腔の健康は全身の健康を支える」
これは、歯科医学を口腔科学として捉えた、
開設当初から貫く先駆的な考え方です。
つまり歯を診ることは、人を診ること。
噛む、話す、笑う。口が担う役割そのすべてが、
人の尊厳と生の豊かさにつながっています。

ここは、歯科医学の最前線。
国家資格取得を見据えた実践的な教育と、
臨床経験を通し、精緻な技術を磨く環境があります。
なにより、医療人として生涯の使命感を養い、
同じ志を持つ仲間と切磋琢磨できる場です。

口から人の一生を支えること。
この志には、覚悟がある。だからこそ、
「歯科医師になりたい」ではなく、
「歯科医師として生きていく」。
その決意に、全力で応えます。

教育ビジョン

Oral Science

歯科医師は虫歯を治療するだけでなく、
口腔の健康を通じて全身の健康を支えるために、
ますます重要となってきます。
松戸歯学部は歯科医学を
「オーラルサイエンス(口腔科学)」と捉え、
医学の一分科としての教育を行っています。

がん予防

唾液には発がん性を減少させる物質も含まれています。
清潔で健やかな口腔環境を保つことは、がんの予防にも
大切です。

脳の活性化

噛むことは脳の活動を活発にします。自分の歯で噛める
ことが認知症の予防にもつながります。

感染予防

口はからだの入口です。口腔の清潔が肺炎などの感染
予防にとっても役立ちます。

消化促進

よく噛んで食べると、食べ物と唾液がよく混ざり消化吸収
を助けます。そして、胃腸の負担も軽くします。

体力向上

しっかりと噛むことは歯やあごの発育だけでなく、丈夫
なからだづくりの基本です。

口臭予防

さわやかな息は、やさしいエチケット。歯周病や内臓疾患
などでは病的口臭が現れます。

豊かな表情

美しい歯は輝く笑顔の主役です。健康な口は豊かな表情
をつくります。

松戸歯学部 3つの特長

第119回(2025年度)
歯科医師国家試験合格者数(総数) **57名**

1 附属病院と連携した 実践的な臨床実習

指導医、患者さん、医療スタッフと関わりながら診療に参加します。附属病院での実習を通じて、知識・技術だけでなく、柔軟なコミュニケーションスキルを身に付けることができます。実習の舞台となる附属病院は、歯科大学附属病院として電子カルテを国内初導入し、様々な最新検査機器を備え、複雑化・多様化する医療ニーズに対応したスキルを身に付け即戦力となる歯科医師を養成します。

全国でも来院患者数 トップクラスの附属病院

来院患者数、年間20万人以上、1日約720人、年間入院患者数延べ約2,800人。全国の歯学部附属病院でもトップクラスの来院患者数を有する附属病院では、患者さんのご協力により豊富な臨床経験を積むことができます。また当院は、国家試験合格後における臨床研修の実施機関として、約70人の研修歯科医の受け入れ体制を整えています。

患者さんを中心とした 機能的な医療環境

地上4階の附属病院棟には、歯科治療用ユニット183台、ベッド数31床を備えています。21診療科(歯科17科、医科4科)を機能的に配置し、患者さんを中心とした構造になっています。また、最新鋭のCT、MRI等を有するなど、充実した医療環境を整えています。

地域歯科医療の 中核を担う附属病院

附属病院は、口腔の健康は全身の健康を支える「オーラルサイエンス(口腔科学)」の理念のもと、新たな歯科医療の分野に挑戦を続けています。臨床実習の場であると同時に地域歯科医療の中核を担い、最新の設備で高度な医療を提供する一方、地域に根ざした取り組みを積極的に行っています。

2 「医療行動科学」で プロ意識を修得



カリキュラムポリシーにうたわれている「対人関係能力や医療人としての人格を備えた全人的な歯科医師を養成」の観点から、1～4年次にわたり「医療行動科学1～4」を設置しています。患者さんの声に耳を傾け、その思いをくみ取って適切な説明・治療ができるよう、講義や実習を通して患者心理の理解を深め、プロフェッショナリズムを修得します。

3 教職員が一丸となった きめ細やかな学修支援



1年次から4年次までに配置された学修サポート委員と学年担任が、学生や保証人との面談を定期的に行い、成績の状況に応じて学修方法や弱点補強のための工夫などのアドバイスを学生一人ひとりに行います。また5・6年次では、それぞれ10～12名程度の班に2～3名の教員を配置し、臨床実習へのアドバイスや歯科医師国家試験に向けての助言など、きめ細やかな学修支援を行います。

附属病院の診療科紹介



診療部門

【歯科】

放射線科/臨床検査科/病理診断科/
総合歯科診療科/歯科疾患管理科/
口腔機能維持管理科/健康増進歯科/
保存科/補綴科/歯周科/小児歯科/
矯正歯科/特殊歯科/口腔外科/
麻酔・全身管理科/口腔インプラント科/
顎関節・咬合科/地域医療連携統括センター

【医科】

内科/脳神経外科/
頭頸部外科・耳鼻咽喉科/
心臓血管外科

*詳細はこちらをご覧ください。



松戸歯学部 の 学び

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学の理念(目的及び使命)

日本大学は 日本精神にもとづき
道統をたつとび 憲章にしたがい
自主創造の気風をやしな
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

日本大学は 広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

日本大学マインド

日本の特質を理解し伝える力

多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

社会に貢献する姿勢

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

自ら学ぶ ●豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
●世界の現状を理解し、説明する力

自ら考える ●論理的・批判的思考力
●問題発見・解決力

自ら道をひらく ●挑戦力 ●コミュニケーション力
●リーダーシップ・協働力 ●省察力

松戸歯学部 の 教育研究上の目的

＊詳細はこちらをご覧ください。



理 念

口腔の健康は全身の健康を支えるという考えを基盤とし、それを具現化した「オーラルサイエンス(口腔科学)」の学びを礎に、自主創造の能力を養い、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を持ち、論理的かつ批判的思考を用いた問題解決力と省察力を有し、歯科医療と歯科保健を通して生涯にわたり社会に貢献できる人材を育成する。

目 標

口腔と全身の健康維持・増進に寄与するために、社会の多様なニーズに対応できる高い職業倫理を備え、あらゆる職種と協働し、地域医療と地域保健に貢献できる歯科医師を育成する。

研究指導の方針

教員の指導の下に、歯科医学の発展のために積極的に研究活動に参加し、その成果を国内外の学会へ公表することを通じて、研究力を高め、さらに国際人としてのグローバルセンスを養う。

松戸歯学部3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

松戸歯学部は、日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、松戸歯学部の教育理念に基づいた各分野の授業科目をすべて修得し、以下の到達目標に達した者に学士(歯学)の学位を授与する。

自ら学ぶ

DP1. 幅広い教養と豊かな人間性に基づく高い倫理観を持ち、医療の中での役割を認識して社会に貢献できる。
DP2. 国際社会における歯科医学や医療の現状を理解し、その多様性について説明できる。

自ら考える

DP3. 歯科医学の研鑽によって得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
DP4. 自ら能動的に課題を発見し、歯科医学の知識に基づく問題解決ができる。

自ら道をひらく

DP5. 医療人として新しいことに挑戦し、自らの道を切りひらくことができる。
DP6. 歯科医療に必要なコミュニケーション力を有し、かつ実践できる。
DP7. 地域社会における保健、医療、福祉および介護などに貢献するために必要な多職種の医療・福祉従事者と連携、協働かつ支援することができる。
DP8. 生涯にわたり謙虚に自己を見つめ、自己分析の習慣を身に付け、医療人としての資質を高めることができる。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

松戸歯学部(学士(歯学))では、日本大学教育憲章(以下、「憲章」という)を基に、学位授与の方針に沿って、教育課程の編成を実施する。憲章に基づく学位授与の方針における8つの能力(コンピテンシー)を養成するための初年次教育、教養教育、専門教育等について、一般教養、医療行動科学、基礎歯科医学、社会歯科医学、臨床歯科医学、総合医学の各領域で構成される科目を横断的かつ体系的に位置付けて、総合歯科医学領域と臨床実習領域でそれらを統合する教育課程を編成する。また、講義、演習、実験、実習の授業形態を適切に組み合わせた科目を開設し実施する。学修成果の評価については、各授業科目の専門的な知識・技能及び態度の能力の修得を適切に評価する多元的な評価方法により各授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について判定し、憲章に沿った能力の修得については、卒業の達成を測るための授業科目等により総合的に行う。

自ら学ぶ

CP1. 一般教養、全学共通初年次教育および医療行動科学による体験実習や参加型学修を通じて、自然科学、人文社会科学への深い理解と医療人としての基礎となるプロフェッショナリズムを育成し、5年次から付属病院において参加・実践型の臨床実習を行い高い倫理観を醸成する。知識に関する評価は筆記(論述・客観)試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。
CP2. 外国語学科目や、海外研修や海外研究者との交流を通じて、国内外の歯科医療の現状を理解し、国際社会で活躍できる基本的能力を育成する。知識に関する評価は筆記(論述・客観)・口頭試験、態度を加えた評価はレポート等を用いて評価する。

自ら考える

CP3. 基礎歯科医学や社会系歯科医学を通じて論理的思考力を育み、自ら学ぶ学修態度によって臨床歯科医学に関する知識を修得する能力を育成する。5年次から付属病院で行う臨床実習で歯科医療に対する論理的・批判的思考力を養成する。知識に関する評価は筆記(論述・客観)試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。
CP4. 基礎歯科医学と臨床歯科医学が連携する授業科目を配置し、歯科治療の実践力の向上に必要な探究心と問題解決能力を育成する。5年次からの臨床実習では主体的に実践する自己主導型学修をサポートし、適切なフィードバックによって継続的に問題解決する能力を養成する。知識に関する評価は筆記(論述・客観)試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。

自ら道をひらく

CP5. 臨床歯科医学と隣接医学を通じて新しいことに挑戦する気持ちを育成する。さらに充実した診療参加型臨床実習を提供し、基本的な臨床技能を習得し、責任と役割を担い、新しいことに挑戦する能力を養成する。知識に関する評価は筆記(論述・客観)試験・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。
CP6. 医療行動科学を通じて、初年次体験実習、参加型学修(模擬患者を対象としたロープレ実習を含む)を行い、さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達する能力を育成する。さらに5年次からは、付属病院や在宅で患者や多職種との連携を実践する多様な臨床実習を行うことで、対人関係能力や医療人としての人格を備えた全人的な歯科医師を養成する。これらの評価は、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。
CP7. 社会歯科医学と地域医療に関連する学科目の講義、および地域医療実習等を通じて、多職種医療・福祉従事者と協働する必要性を自覚し、社会に貢献する能力を育成する。評価は、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。
CP8. 初年次教育から臨床歯科医学および総合医学に至る学修を通じ、臨床実習を経て卒業に至るまで、常に振り返りを行いながら自己の向上を図る必要性を理解し、医療人として生涯にわたって学ぶ姿勢を育成する。評価は、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。

アドミッション・ポリシー (入学受入れの方針)

松戸歯学部の教育理念・目標に合致した人を選抜するために、基礎的学力、論理的思考力やコミュニケーション能力などに関する試験を実施し、医療人としての資質を総合的に評価し、以下の資質を持つ人を受け入れる。

AP1. 歯科医学を通じて社会に貢献する志を有する人。
AP2. 歯科医学を修得するための基礎的な学力とコミュニケーション能力を兼ね備えている人。
AP3. 自主的に学ぶ姿勢と創造性に富み、論理的で柔軟な思考力を有する人。
AP4. 他人に対する思いやりを持ち、社会的責任感が強く、多様な価値を受容する寛容性と奉仕の精神を備えている人。
AP5. 諦めない心で歯科医学を探究し、目標や意義を見出すために振り返りができる人。

学生教育の質を高める
「教育・学修総合センター」

松戸歯学部では「教育・学修総合センター」を設置し、学修を支援する教育システムを構築しています。収集した成績等のデータに基づいて作成した教材を学生に提供し、苦手分野の克服を目指しています。また、全ての試験成績に基づいて分析したデータを学生にフィードバックすることで、学びを確実に進めるためのサポートを行っています。

1年次

前学期後学期

2年次

前学期後学期

3年次

前学期後学期

4年次

前学期後学期

5年次

前学期後学期

6年次

前学期後学期

医療行動科学領域

歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修します。

医療行動科学1～4

教養系領域

全学共通教育科目
自主創造の基礎 など

教養科目
歯科医学へのとびら、
法学、心理学 など

保健体育科目
保健体育

外国語科目
英語1～4

準備教育科目
物理学、生命科学、数学

基礎歯科医学領域

歯科医師になるためには、人体の構造とその詳細、人体の各部分の機能を十分に理解する必要があります。さらに、病気の原因や治療に用いる薬の作用なども十分に理解しておく必要があります。このような医学にとって基本的な知識は基礎医学と呼ばれており、専門的には解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物・免疫学、病理学などの分野に分かれています。また歯科医学においては生体との関わりの中で材料学が重要な役割を果たしています。そこでこれらの学科目を系統的に学修し、生体の構造や機能について幅広い医学知識や実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けての基礎知識を身に付けます。

微生物・免疫学、病理学、歯科材料学 など

総合歯科医学領域

複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的とします。

歯科医学総合講義1～5

臨床実習領域

担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけでなくとどまらず、歯科医師としての態度、職業意識を身に付けます。



臨床実習課題別臨床実習



総合医学領域

臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ複合的に学び、「オーラルサイエンス(口腔科学)」を実践するための知識・技術を統合的講義にて身に付けます。

総合医学

臨床歯科医学領域

からだ全体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深めます。歯の硬組織や周辺組織に関する疾患や、その欠損と障害、口腔顎顔面領域の軟組織や硬組織に発生する疾患や障害、発育、成長過程に発生する疾患や障害、また高齢者に特有の疾患や障害とその治療法を学び、多様な歯科医療対応を修得します。

歯科矯正学、高齢者歯科学、放射線学 など

共用試験（CBT・OSCE）

総合歯科医学領域

総合歯科医学領域

歯科医学総合講義6

歯科医師国家試験

基礎的な歯科医学を総合的・複合的に学ぶ

幅広い教養の知識と



学生インタビュー

Student Interview

私は看護師として5年の臨床経験を経て、2年次編入で松戸歯学部に入りました。これまで医療の現場に携わってきた経験から、歯科についてより専門的に学びたいと考え、本学部での学びを志しました。

編入当初は、学生生活に馴染めるかという不安もありましたが、クラスメートや面倒見の良い先生方の温かいご指導に支えられ、安心して学業に取り組むことができました。実習や日々の講義を通して、学びたい気持ちをしっかり支えてくれる環境だと感じます。

2年次では医学的基礎科目や解剖学、生理学など、歯科医療の土台となる知識を集中的に学びました。全身の仕組みを理解したうえで口腔を捉える視点が養われ、歯科医療が全身と深く関わっていることを実感

した一年となり、基礎を丁寧に積み重ねることの大切さを改めて感じる機会にもなりました。

3年次になると、歯科保存学や歯科補綴学などの専門科目が始まり、基礎で学んだ内容がどのように臨床へつながるのかを具体的に理解できるようになりました。知識が点から線へとつながっていく感覚は非常に興味深く、歯科への理解が深まっていくのを感じています。

社会経験を経て大学に入り直した私ですが、いつからでも学び直す環境を整えてくれている大学に感謝しています。

白瀬 実実さん(4年次生)

学びの特色

Featured Learning

歯科矯正学



講義と実習を行いながら学修を進めます。講義では、歯科矯正学の歴史と定義、正常咬合、不正咬合の原因および予防などを学びます。実習では、不正咬合の治療がどのような装置によって行われるか、また、歯がどのように動くのかについて、実際の矯正器具を使いながら理解を深めます。

高齢者歯科学



現代の超高齢社会において、高齢者に関する歯科医学、歯科医療の知識は非常に重要なものとなっています。高齢者歯科学では、加齢による口腔内の変化をはじめ、高齢者をとりまく社会経済的環境、保健福祉制度をはじめとした、超高齢社会における歯科医師に必要な知識、技能を学修します。

4年次前学期の時間割 (令和8年度 参考)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	障害者歯科学	高齢者歯科学	口腔顎顔面外科学	総合医学	小児歯科学
2	歯科矯正学	歯科保存学2			歯科補綴学2
3		社会歯科学	歯科保存学2	歯科医学総合講義4	
4		歯科補綴学2		医療行動科学4	

教員からのメッセージ

Message from the teacher

1～4年次は、歯科医師としての確かな基盤を築くための極めて重要な期間です。松戸歯学部では、歯科医師に求められる知識・技能・態度を、段階的かつ体系的に修得できます。

1年次には、教養系科目を中心に学び、物事を多角的に考える力や豊かな人間性を育成します。あわせて、歯科医学と社会との関わりを理解することで、学修に対する主体性と明確な目的意識を養います。

2年次では、人体の構造や機能、疾病

の成り立ち、薬物の作用など、臨床の基礎となる医学的知識を修得します。さらに、歯科材料に関する理解を深めることで、歯科医師としての基礎力を確かなものにします。また、歯科医療が社会に果たす役割を学び、地域や社会の健康を支える使命感を育みます。

3～4年次には、歯・歯肉・顎顔面領域の疾患や障害など、より臨床に即した内容を学びます。加えて、ライフステージごとの特徴的な疾患や治療法を学ぶことが出来ます。また、内科学や外科学など

を学ぶことで、口腔と全身の密接な関係を理解できます。

この4年間の学びの積み重ねは、共用試験および国家試験の合格に繋がるだけでなく、人々の健康と人生を支える歯科医師としての揺るぎない力となります。皆さんと共に学べることを楽しみにしています。

鈴木 到 専任講師



付属病院での臨床実習

全国トップクラスの来院患者数を誇る



学生インタビュー

Student Interview

5年次からは、付属病院での実践的な授業である臨床実習が本格的に始まります。

臨床実習は各診療科を一定期間ずつ経験するローテーション形式で行われるため、むし歯治療や歯周病治療のほか、顎や顔面などに現れる疾患の治療など、歯科医療の幅広い分野を体系的に学ぶことが可能です。

さらに臨床実習では、これまで身につけてきた知識をもとに実際に患者さんと接し、診療の流れやコミュニケーションのとり方を学びます。4年次までは座学が中心でしたが、5年次以降は知識を「使う」ことが求め

られ、歯科医師として必要な考え方や判断力を身につけていきます。

また、5年次では、定期試験や国家試験の対策として、臨床実習の空き時間に自習室や図書館での自主学習に取り組みます。松戸歯学部は、教員と学生の距離が近く、分からないことがあればすぐに相談できる環境が整っているため、国家試験に向けて着実に成長することができます。

山本 大夏さん(6年次生)

学びの特色

Featured Learning

診療参加型臨床実習(SD診療)

付属病院を受診する患者さんの診療に参加し、歯科医療の実践力を培います。指導医のもとで、初診時医療面接と応急処置、診察・情報収集と分析、総合的治療計画の立案、患者さんへの説明まで学生が行います。さらに、指導医の指示を仰ぎながら実際に患者さんの治療を担当し、患者さんとの良好な関係構築のためのコミュニケーション能力と診察技能を高めます。



課題別臨床実習



6年次に実施され、各診療科で参加型臨床実習を行いながら、新5年次生に基本的臨床能力を指導することで自身の知識・技能・態度を見直し、より専門的な知識・技能・態度を統合的に修得します。

歯科医学総合講義6



診断・治療・予防までの一貫した診療を実践できる歯科医師を目指して講義を行い、歯科医師国家試験の合格に向けて6年次までに履修した知識・技術を集約します。

教員からのメッセージ

Message from the teacher

5年次になると付属病院での臨床実習がスタートします。様々な診療科があり、配属として全ての科の診療に参加することができます。4年次までの知識がここで実際の歯科治療と結びついていきます。

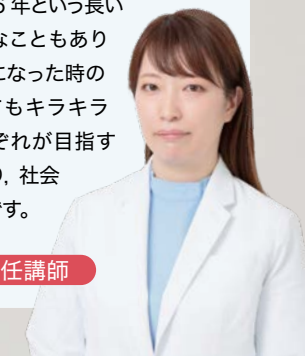
また、患者さんを担当し、診査・診断・治療計画立案を自ら行い、治療を行っていきます。最初は緊張や戸惑いが伝わってきますが、1年を通しての知識と技術の向上には目を見張るものがあります。それ以上に感じるのは患者さんに対する姿勢の変化です。

歯科医師とは痛みや苦しみ、悩みを抱えている方と対峙する職業です。我々が求められるのは知識や技術だけではなく、相手に寄り添い、真摯に向き合い、根気強く改善に導く精神力です。臨床実習では、歯科医師が持つべき思いやりや誠実さ、忍耐力そして患者さんや仲間への感謝の気持ちを育ててほしいと思っています。

6年次になると、担当患者さんに「ありがとう、歯科医師になれるよう頑張ってる」と、感謝と激励を受けて臨床実習も

終わります。その後、いよいよ国家試験に向けての大詰め勉強が始まり、多くの試験をこなします。十数人の班ごとに国家試験対策の教員が学習や生活のサポートをします。6年という長い学生生活で困難なこともありますが、歯科医師になった時の皆さんの顔はとてもキラキラしています。それぞれが目指す歯科医師の姿となり、社会に貢献して欲しいです。

鈴木亜沙子 専任講師



Campus 施設・設備

2024年4月、新校舎「50周年記念棟」の運用を開始し、教育・研究・管理の場としての中核を担う機能を集約しました。

キャンパス中央に配置された新校舎には50周年記念講堂をはじめ、実習室、大教室など、主要な施設が機能的に配置されています。中でもラーニング・コモンズは、図書館機能を含む学修環境の中心としての利用が期待されています。また、学生食堂や体育館、グラウンドなども備え、のびのびと学修に打ち込める環境が整っています。



》50周年記念講堂



合計300名を収容できる大講堂です。開講式などの式典のほか、学会の開催等を想定し多目的に使用できます。

》第1～4実習室



教養・基礎歯科医学・専門歯科医学分野の授業を幅広く安全に学べるよう、それぞれの実習室に特化したさまざまな設備を完備。例えば、タブレット端末などの情報機器を活用した授業にも対応しています。

》臨床実習室



計18台の歯科ユニットが設置され、臨床を想定した実習ができる教室となっています。なるべく歯科医療の現場に近い環境を学生に提供することで、即戦力となる歯科医師を養成します。

》大教室



各学年ごとに専用の教室が整備されており、学年全員で受講する必修授業はこれらの教室を使用しています。

》ラーニング・コモンズ



図書館に隣接する自習スペースであり、個人の自習に使用することはもちろん、グループでの学修をすることも可能です。仲間同士で知識を共有するような、相互に学び合う環境を提供しています。

》図書館



所蔵資料は、歯学関係書籍を中心に約3万5千冊で、医学・薬学を含む隣接領域の専門書も幅広くカバーしています。開館時間は、9:00～21:00(平日)で、利用者が資料を直接手に取れる開架システムを採用しています。

》学生自習室



タブレット端末などの情報機器を使用する学修に対応したコンセント付きの机を151台設置した自習スペースです。利用可能時間は7:00～22:00で、毎日、多くの学生が利用しています。

》学生食堂



学生や教職員、研修医など学内関係者が自由に利用でき、クラブのミーティングや学修する場としても利用されています。

》体育館



バスケットボールコート2面を確保でき、冷暖房設備があります。その他に各種道場、トレーニングルーム及びシャワー室を備えています。

